

「瓢太閣」「芳水」入賞

全国新酒
鑑評会 県銘柄で5年ぶり

清酒の品質を競う2016酒造年度全国新

酒鑑評会（酒類総合研究所など主催）の結果が18日発表され、日新酒類太閤酒造場（阿波市）の瓢太閣が金賞を受賞し、芳水酒造（三好市）の芳水が入賞した。徳島県の酒が入賞するのは5年ぶり。

前田康人社長は「若手が成長し、県立工業

技術センターなどの指導をいただいたおかげ。社員みんなの自信につながる」と話した。出品酒は秋にも発売する。芳水酒造の出品酒は兵庫県産の酒米・山田

錦を使った大吟醸酒。香りが強過ぎず飲みやすい味に仕上げた。

全国新酒鑑評会は清酒の品質向上を目的に全国規模で行われる唯一の鑑評会。今回は860点が出品され、437点が入賞、うち242点が金賞に選ばれた。徳島県からは6点が出品された。

徳島県の酒は11年度に金賞1点、入賞1点が選ばれたのを最後に入賞がなく、今回は出品した45都道府県で入賞なしは徳島県だけと不振が続いていた。

（宮本真）